

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-153752**(P2007-153752A)**(43) 公開日 **平成19年6月21日(2007.6.21)**

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 K 8/49 (2006.01)	A 6 1 K 8/49	4 C 0 8 3
A 6 1 K 8/41 (2006.01)	A 6 1 K 8/41	
A 6 1 Q 19/00 (2006.01)	A 6 1 Q 19/00	

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号	特願2005-347531 (P2005-347531)	(71) 出願人	503207625
(22) 出願日	平成17年12月1日 (2005.12.1)		MT コスメティクス株式会社
			東京都豊島区西池袋2-39-6
		(74) 代理人	100077779
			弁理士 牧 哲郎
		(74) 代理人	100078260
			弁理士 牧 レイ子
		(74) 代理人	100086450
			弁理士 菊谷 公男
		(72) 発明者	中西 正敏
			東京都豊島区西池袋2-39-6 MTコ
			スメティクス株式会社内
		F ターム (参考)	4C083 AC301 AC302 AC541 AC542 AC851
			AC852 AD192 AD642 AD662 CC02
			CC05 EE12

(54) 【発明の名称】 皮膚化粧料

(57) 【要約】

【課題】 従来の皮膚化粧料と比べ、皮膚の張りを保ち、皺、たるみを格段に減少する効果を生じる皮膚化粧料を提供する。

【解決手段】 化粧基材（精製水、グリセリンなど）中に、主成分としてL-カルノシン及び2-ジメチルアミノエタノール重酒石酸塩（DMAE）をそれぞれ0.1～5.0質量％加える。

さらに、ビタミンC、ビタミンEを加えてもよい。

前記成分を加える皮膚化粧料は、美容液、クリームなどの皮膚に塗布する公知のもののもいづれであってもよい。

【選択図】 なし

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

L-カルノシン及び2-ジメチルアミノエタノール重酒石酸塩（DMAE）を夫々0.1～5.0質量%含有してなる皮膚化粧料。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、皮膚表面の皺、たるみを減少する効果を有する皮膚化粧料に関する。

【背景技術】

【0002】

皮膚表面の皺、たるみを減少する効果を有する皮膚化粧料として、ビタミンCやビタミンEなどを加えたものがあるが、効果がいまだ不十分である。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

本発明は、上記欠点を解消し、皮膚の張りを保ち、皺、たるみを減少する効果を生じる皮膚化粧料を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0004】

上記目的を達成するために本発明者は、鋭意研究の結果、L-カルノシン及び2-ジメチルアミノエタノール重酒石酸塩（DMAE）を適量配合した化粧料を使用することにより、皮膚の張りを保ち、皺、たるみが減少することを知見して本発明に至った。

【0005】

すなわち本発明の皮膚化粧料は、L-カルノシン及び2-ジメチルアミノエタノール重酒石酸塩（DMAE）を夫々0.1～5.0質量%含有してなる。

皮膚化粧料は、美容液、クリームなど皮膚に適用する公知のもののいずれであってもよい。

【発明の効果】

【0006】

本発明では、L-カルノシン及び2-ジメチルアミノエタノール重酒石酸塩（DMAE）の持つ作用の相乗により、皮膚の張りを保ち、皺、たるみを減少できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

以下本発明について説明する。

【0008】

精製水、グリセリンなどを含む通常の化粧基材中に、例えばL-カルノシンを5.0質量%、2-ジメチルアミノエタノール重酒石酸塩（DMAE）を4.0質量%加える。

さらに、ビタミンC、ビタミンE、グルコサミンなどの肌（皮膚）に潤いや張りを与えるとされる公知の成分や、香料、PH調整剤などを適宜加え製品（美容液、クリームなどの皮膚化粧料）にする。

【0009】

前記L-カルノシン及び2-ジメチルアミノエタノール重酒石酸塩（DMAE）の量はいずれも0.1～5.0質量%であればよい。いずれかが0.1質量%未満の場合は、皮膚の張りを保ち、皺、たるみを減少するという効果を生じないし、逆に5.0質量%を超える場合は、製品価格が高騰するだけで、5.0質量%以下のものと効果に顕著な違いを生じない。

【0010】

なお、本発明皮膚化粧料の作用の根拠は、明確ではないが、以下の抗酸化作用、糖の代謝の促進作用及び筋肉収縮機能の向上作用の相乗によると推定できる。

（抗酸化作用）

10

20

30

40

50

L-カルノシンの持つ抗酸化作用により、フリーラジカルによる皮膚のコラーゲン層の破壊を防ぐ。

（糖の代謝の促進作用）

体内で代謝されずに蓄積した糖が皮膚のコラーゲンと結合して、コラーゲン線維の持つ伸縮性を阻害し、老人斑や皺ができ易くなる。L-カルノシンは糖の代謝を促進し、コラーゲンとの結合を防ぎ、老人斑や皺をでき難くする。

（筋肉収縮機能の向上作用）

2-ジメチルアミノエタノール重酒石酸塩（DMAE）は、アセチルコリンの前駆体であり、皮膚から吸収された時、アセチルコリン受容体を阻害し、筋肉収縮機能を高める。

【実施例】

10

【0011】

化粧基材中に、L-カルノシンを5.0質量%、2-ジメチルアミノエタノール重酒石酸塩（DMAE）を4.0質量%加える。

さらに、ビタミンC、ビタミンE、グルコサミン及びPH調整剤を加えた製品を、30代の女性15人に3ヶ月間使用してもらったところ、全員が肌のきめが細かくなったような気がするとの使用感を持つと共に、8人が皺が改善したと報告してきた。